
起承転結：起

おさかな

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

起承転結：起

【Nコード】

N9416X

【作者名】

おさかな

【あらすじ】

1つの出来事、4つの視点
4人がそれぞれ思うこと

不器用なふたりと、それを見守るふたりのおはなしです

アメブロ：オトナになっても にて連載しておりました作品と同じものです

陵の見解

「お、そついや美希。トラ憶えてるか？」

「トラ？」

食後のデザートは満腹感を増進する効果があるから適量なら毎日食べた方がいいのだという説の提唱者が、柿を剥く手をちよつと止めた。

しばらく視線を俺の頭の上の方へと彷徨わせているうちに、該当者を思い出したらしい。急に表情が花咲く。

「あーあーあーあー！！！！ なっつかしい！！ 元気がしらねー、トラー！」

「ん、元気だった。ほれ」

携帯を開いて見せる。

俺たちの2つ下。

バスケット部長だった俺と、マネージャーだった美希との共通の後輩。

たくさん居た後輩達の中でも、一番気の合うヤツだった。

高校の卒業以来ずっと7年ぶりの部活の後輩は、小さな画面の中で、顎を引いた上目遣いの目元に相変わらずの挑戦的な雰囲気、口元には逆に人懐っこい笑みを浮かべて笑っていた。

「やあだ、生意気にヒゲなんか生やして。それにこの髪の色、ほとんど金髪じゃない。まーでも老けたわね。トシとったんじゃない？あのコ」

もちろんトラだけがトシをとったはずがない。
間違いないその時間分、お前もトシとったんだぞ、とは黙っていた。

「あいつ今、実家の仕事してんだと。現場がウチのすぐ近くだったんだよな。見たことあるでっけえヤツがいんなと思ったら本人だった」

「へー！世間って狭いわねー。．．．あ？あのコ、大学遠かったんじゃない？」

「卒業してすぐに戻って来たんだとよ。孝行なヤツだよな、意外に」
「あらそー。まあ男の子でも、近くに居てくれた方が親は安心よねー」

変に落ち着いた表情をしながら、また果物ナイフを動かし始める。
よし、手応えは悪くない。

「でよ、ヤツも俺も仕事だったもんであんまり話せなかったんだよな。ちと飲みにも行くかってことになったから力ネくれ」

ひらひらと手を出して見せると美希がまた手を止めて、いつもは大きな目を細めながら眉間に縦ジワを入れてじっと俺を見た。

「・・・トラが懐かしいハナシじゃなかった？」

「もう少し詳しく現状聞いてきてやる。俺の先輩としてのメンツに協力を」

「もうっ」

くしゃつと鼻にシワを寄せながら、美希がナイフの先をこっちに向けた。

「あぶつ、危ねえなっ」

「あたしも行きたいっ!!」

「女子お断り」

「もーっ!!!!」

長い付き合いの俺達は、大体こんなふうにして毎日を過ごしていた。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能たんのうしてください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n9416x/>

起承転結：起

2011年10月26日11時20分発行